

- ◆**学校名** 泉大津市立誠風中学校、和泉市立信太中学校、岸和田市立久米田中学校
阪南市立鳥取東中学校、田尻町立中学校
- ◆**実施学年** 1、2、3年
- ◆**主題名** きまりを守る **道徳の内容** C 規則の尊重
- ◆**ねらい** 主人公の行動を通して、きまりを遵守し確実に義務を果たすことの重要性を学び、社会の秩序と規律についての道徳的判断力を養う。

◎**中心的な発問**

「今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。」とありますが、なぜ、よみがえるのですか。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導 入	◎身近な「きまり」について考える。	身の回りのきまり・ルールには、どんなものがありますか。	◎身近なきまりやルールを思い浮かべさせる。社会にはたくさんなきまりがあることを認識させる。
展 開	◎資料「二通の手紙」を読む。 ◎主な登場人物や物語の流れを確認する。 ◎個人で賛成・反対の立場を決め、ワークシートに意見を書く。 ◎班で話し合う。 ◎クラス全体で意見を出し合う。	あなたは、元さんが姉弟を入園させたことについて、賛成か反対か。その理由もワークシートに書きなさい。 【予想される答え・賛成】 ・姉弟の気持ちを考えた元さんは優しい ・数分なのだから、特別に許可してもかまわない ・母親も感謝してくれている など 【予想される答え・反対】 ・規則を破ってはいけないから ・何事もなかったからよかったものの、何かあったら大変なことになったから など	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成反対に丸ができていないか。 ・自分の言葉で書けているか。 ・班、全体で発表できているか。 ・考える態度が見られるか。 <p>(評価方法)</p> <p>ワークシート、観察</p> <p><支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は中立の立場をとる。 </div>

展 開	<p>◎個人でワークシートに記入する。</p> <p>◎クラス全体で意見を出し合う。</p>	<p>「元さんの行動について、みんなの意見を聞きました。この物語では、元さんは、『この年になって初めてかんがえさせられることばかりです』と言い、晴れ晴れとした顔で自ら職を辞しました。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。」とありますが、なぜ、よみがえるのですか。</p> </div> <p>【予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則を破ると、多くの人に迷惑をかけることになってしまうと、自分に戒めるため。 ・そんなことをすると取り返しのつかないことになってしまうと思っているから。 ・よかれと思ってしたことが、結局は、自分の身に降りかかることになると分らせてくれるから。 ・どちらがいいか、悩んでいるから。 など <p>(補助発問)</p> <p>元さんのあの日の言葉とは、どのような言葉ですか。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐々木さんの心情（思いやり重視から規則遵守の重視へ）を理解できたか。 <p>(評価方法)</p> <p>ワークシート、観察</p> <p><支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の最初と最後にある、佐々木さんの会話が分かるように、説明する。 </div>
終 末	<p>◎中心発問を経て、元さんの行動について自分の考えの変化を問う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「あなたは今、元さんの行動について、どう思いますか」</p> </div> <p>ワークシートで、「賛成」「反対」を選び、その理由を記入する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成、反対が選べているか。 ・自分の意見が書けているか。 ・他の人の意見を聞いて、自分の意見が変化した、または自分の意見がより強くなったなど、影響はみられたか。 <p>(評価方法)</p> <p>ワークシート</p> </div>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

【成果】

- ①：発問1に対して、活発な意見交換が行われた
 - ・「この子ども達（姉弟）を入園させるか？させないか？」の議論は、どの学校でも活発に意見交流が行われました。
- ②：社会規範の認識について確認できた
 - ・理由や事情があっても守らなければならない規則や、社会の中のルールがあることを認識することができた。

【課題】

- ・発問に軽重（けいちょう）をつけて、小発問は時間を少なめに、中心発問には多くの時間を割くなどの工夫が必要。
- ・生徒の発達段階に応じて「どの登場人物に焦点を当てて発問するのか？」考える必要がある。
- ・中心発問までいくように工夫する（一体何を言いたいのか、授業者がまとめておく）。

○道徳の評価についての提言

- ・生徒を評価するときには、多角的に見なければならないが、実際には教師が評価をする場合、提出されたワークシートを利用するが多い。
- ・しかしそれでは、書くことが得意な生徒は、高評価となり、書くことが苦手でも、授業中によく発言したり、寡黙であってもよく考えている生徒を、十分に評価することは難しい。
- ・これらを改善するためには、ワークシートに工夫を凝らす必要がある。
例えばワークシートに、授業中の印象深い発言と発言者の名前を書く欄を設けたり、ペアワークや班活動中の印象深い発言と発言者の名前を書く欄を設けたりすることで、教師は授業中に見落とした生徒達の活動を拾い上げ、より平等に評価を行うことが可能になると考える。
- ・教材はプリント化して生徒に配布することで、プリント回収後に、生徒のメモ書き等に注目することで、評価の材料を得る助けになると考える。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（中学校3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

「書く」発問時において、主人公になったつもりで、まずは、ワークシートに記入させる。その後、発表させ、意見交流をおこなった。

【発問1】生徒の意見

- ・佐々木さんは何も言わなかった。
- ・佐々木さんは、元さんのすることに賛成した。
- ・佐々木さんは、元さんのしたことにだまっていた。
- ・佐々木さんも心のどこかで、元さんと同じことをしたと思っている。

大抵の意見が、元さんに従う（元さんと同じことをする）であった。

（少数意見として）

- ・してはいけないけど、黙っていた。・よくないと思っていた。

生徒の中には、これぐらいはという寛容さを示す意見が出たが、許すか、許さないかという意見を求めているのではなく、あくまで、主人公「佐々木さん」の気持ちを考えさせないといけけないので、「佐々木さんも元さんと同じ気持ちになった？」と確認を行った。

【中心発問】生徒の意見

- ・元さんだけがいけないと言われてかわいそう。
- ・俺が元さんならそれでいいと思った。
- ・姉弟が喜んでたからそれでいい。 など、元さんについての記述があった。

その際に

- ・佐々木さんの気持ちの変化が起こっていることをしっかりと理解させないといけけない。
- ・佐々木さんの元さんの思い出話が、元さん自身の話となっはいけないように、生徒達に理解させないといけけない。 という点から

「この話は、元さんの話？」という補助発問を出し、元さんの話だと思っていた生徒から、「元さんの話やけど、それを思い出した佐々木さんの話」という反応が出たので、

「それじゃ、何で、佐々木さんは、元さんのことを思い出したんやろう？」と質問。

生徒はしばらく考えた後、「戒めなんちゃうん？」「何の戒め？」と質問。

生徒は、「ルールを破ったらあかんことを知った。と思う。」

その後は、全体の意見交流を行った。

○成果と課題

【成果】○ワークシートを使い、考えさせる時間があり、記述はとてもよく書けていた。

また、他の生徒の意見を傾聴することができた。

○発問によっては、活発に自分の意見を発表していた。

【課題】●ワークシートに頼り過ぎると時間がかかり過ぎる傾向にある。

●ある程度の時間の区切りが必要。

時間内に自分の意見をまとめて書く必要がある。

時間をかけてもまとめきれない生徒もいた。

◆実施学年（中学校1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・発問1に対して活発な意見が出た。「賛成・反対の考え」なのでどの生徒も自分の意見を発表できていた。また、理由までしっかり発言できる生徒もおり、聞く態度もあった。
- ・物語を読みすすめる中で、その都度、子どもに「どう思いますか」と問いかけることで心情の変化をつかむことができていた。
- ・「なぜ思い出すのか、なぜ元さんがすっきりした顔をしていたのか」を問うと、「無責任」「ルールはやっぱり大切」などの意見が多くでた。最初の問いからの変化が見られた。

○成果と課題

【成果】

- ・登場人物の心情を考えることができた。
- ・社会規範の大切さを考えることができた。

【課題】

- ・導入の時間が多くかかったので、展開のどこに重きをおくか考える必要がある。
- ・2択の質問には答えられるものの具体的な発問には消極的な子どもが多いので、発問の仕方や答え方を工夫する必要がある。
- ・規範やルール、勤労などどこを中心に考えさせるかを最初に考えておく必要がある。
- ・講義形式だけでなく、考える場面を適宜取り入れる必要がある。
- ・板書に時間がかかるので ICT の利用も効果的である。

実践校名（和泉市立信太中学校）

◆実施学年（中学校1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・元さんが、姉弟を入園させた行動について、賛成か反対かをワークシートに記入することと共に、その理由も記入することを求めた部分では、多くの生徒が、自分がそのように考えた理由を、記入することが出来ていた。
- ・上記の問いについて、自分とは逆の意見をどのように思うかとの問いについては、感覚的な理由が多く見られ、その理由を詳しく述べているものは少なかった。
- ・元さんが晴れ晴れとした顔で、職場をやめていったのかの問いについては、理由を考えてしっかりと書けているものと、理由を書けなかったものに大きく分かれた。

○成果と課題

- ・生徒がワークシートに記入することで、自分の考えをしっかりと持ち、全体の中で発表しやすい状態となった。
- ・ワークシートに理由を書けない生徒が書けるように助言したり、ワークシートに工夫したりすることが必要である。

実践校名（岸和田市立久米田中学校）

◆実施学年（中学校2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

場面：展開序盤（方法）ワークシート・観察

評価：規則を知っていながら、規則を破って子どもたちを入園させた元さんの行動について、賛成か反対かを考え、その理由について自分の考えを明らかにさせているかどうか。

（実際）

- ・二択というスタイルをとったことで、全員が賛成、反対のどちらかを選択し、その理由をしっかりと考えられていた。数名の生徒は、その理由も全体で発表することができた。
- ・「班での話し合い・意見メモ」をワークシートに設けたことで、仲間の意見を聞く姿勢が以前よりもよくなった。
- ・班での話し合いを行ったことで、同じ意見でも選んだ理由が少しずつ違うことを知り、考えが深まる様子が見られた。

場面：中心発問（方法）ワークシート・観察

評価：「こんなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ」という佐々木さんの言葉から規則を守る重要性について考えているかどうか。

（実際）

- ・ほとんどの生徒が、「元さんの言葉を思い出す」という佐々木さんの心情を理解することができていなかったため、ここで「規則は守らなければならない」というような旨の記述をした生徒は少数であった。

場面：振り返り（方法）ワークシート・観察

評価：「元さんが職を失ってしまう」という結果を踏まえたうえで、元さんの行動に賛成なのか、反対なのかを改めて選択し、その理由について自分の考えを明らかにしているか。

※ この設問では、賛成を選択したとしても「規則を守ること」について考えているかどうかを見る。

（実際）

- ・ほとんどの生徒がワークシートに自分の考えを記述できていた。しかし、多くの生徒は、職を失うことになっても子どもたちを入園させることに「賛成」という意見をもっていた。
- ・規則を破って子どもを入園させるという行動が「職を失う」という大きな結果につながることや、その行動が無責任であることをイメージしにくいようだった。

（支援）設問3で、「規則を破るべきではない」ことを考えさせるための情報提供が重要。

（例）：「入園した子どもたちが、事故などに遭った場合、誰が責任を取るのか。」「事情さえあればいつでも入園できることになるのか。」「そもそも、規則を破っているということは、社会人として無責任ではないか」など。

○成果と課題

【成果】

- 賛成か反対かについて判断した理由を考え、その考えを交流し、深められる授業をめざしたことで、思考の過程がわかることを意識したワークシートの作成や、子どもたちが交流する時間を大事にする教師の意識が高まった。
- ワークシートを工夫したことで多くの生徒が自分の考えをまとめ、文章で書くことができるようになった。
- 自分の考えをまとめることで、クラス全体で意見を発表できる生徒が増えた。

【課題】

- グループワークの際に自分の意見を伝えることが難しい生徒ばかりが集まっているグループでは、活発な意見交流を期待することは難しい。そういったグループに対しての支援を行う必要がある。
- グループ交流の際、活発に意見交換が行われているグループが多数ある場合は、次の展開へ移るタイミングが難しい。
- 発問の内容が理解できずに、何も考えようとしない・何も記入しようとしない生徒に対して、発問の仕方を工夫したり、内容を理解できる情報を提供したりする必要がある。
- クラスメイトの意見を聞いて、自分自身の考えを深めたり共感したりする力がまだまだ弱い。
自分の意見を文章で表現したり、発言したりするのが苦手な生徒への支援を行う必要がある。
- ペアワークやグループワークを取り入れることで、時間配分が難しくなる。模擬授業や教材研究を行いながら授業の構成についても研究を進めていく必要がある。
- ワークシートに「クラスメイトの意見を書く欄」を設けるなど、生徒同士がお互いの考えを深められるように工夫する必要がある。また、教師側もその欄を評価のためのツールとして活用しなければならない。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

年 組 番 ()
道徳ワークシート「二通の手紙」
◎あなたは、元さんが練習を入園させたことについて、賛成か反対か、その理由も書きなさい。
賛成 反対
理由:.....
.....
班での話し合い 意見メモ
◎「今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。」とありますが、なぜよみがえってくるのですか。
理由:.....
.....
.....
◎あなたは今、元さんの行動について、どう思いますか。その理由も書きなさい。
賛成 反対
理由:.....
.....

実践校名（ 阪南市立鳥取東中学校 ）

◆実施学年（中学校1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・発問に対する発表で、自分の考えを出せているか、または、他者の発表に対してどのような態度で聞いているかを見た。生徒は、一人ひとりの発表では自分の考えに基づいて一定発表することができ、他者の発表についても、うなずいたり、メモを取りながら聞くことができていた。
- ・ワークシートでは、元さんの取った行動についての最初の意見と最後の意見で心境の変化を見取った。
- ・本文資料も回収して、生徒が思ったことや感じたこと等心の変化を見取ることもできた。
（事前に資料に思ったことや考えたこと等何でも書いてよいことを説明）
（例）・迷惑もかけていたけど、感謝している人もいる。
 - ・決められたことは守るべき。 等
- ・今回の授業だけでは、実際評価は難しくこれからも道徳授業を進めていく中で、学校生活全般における生徒の成長の様子や行動を見ていきたい。

○成果と課題

普段から積極的に発言することが少ない生徒でも自分の考えを述べられていた。また、本文資料のプリントの中にも、いくつかのメモ書きが書かれていた。

課題としては、生徒たちに中心発問を深く考えさせるために、そこに達するまでの資料の扱いに留意しなければならないと感じた。

実践校名（田尻町立中学校）